

第32回「メダカの学校」

メダカのコンサート Final

釜石ガバチョ・プロジェクト支援



2023年8月23日(水)午後2時

宝山ホール(鹿児島県文化センター)

主催：メダカの学校かごしま

後援：鹿児島県・鹿児島市・鹿児島市教育委員会

(公財)かごしま環境未来財団・南日本新聞社

MBC南日本放送・KTS鹿児島テレビ

KKB鹿児島放送・KYT鹿児島読売テレビ

32年間のご支援、有難うございました

第32回「メダカのコンサート Final」実行委員長 久本勝紘

1991（平成3）年7月23日午後7時、鹿児島県文化センターに開演のブザーが鳴り響き第1回メダカのコンサートの幕が上がりました。この瞬間まで、はらはらドキドキしながら準備してきた素人集団もひとまず胸をなで下ろしたものです。

いらい32年にわたり定期演奏会は、夏休みの定番イベントとして地域に馴染んできました。定演だけでなく折々に、県内の学校、各種施設、集落などへの出前コンサートも実施しました。その際に私どもの活動の趣旨と実態を知って頂くことにもなったのです。

こうして演奏会は、メダカの探索・川の生き物観察などの野外活動と並ぶメダカの学校を支える二本柱に育っていきました。もとより常に運営面、とりわけ資金の遣り繰りに四苦八苦するありさまでしたが、多くのご理解・ご支援を得てここまで漕ぎつけることができたのです。改めて心より感謝申し上げる次第でございます、有難うございました。

顧みるに、望外の前進と慮外の後退を余儀なくされるここまでの道程でした。鹿児島市民の母なる甲突川の大氾濫を招いた8・6水害（1993年）、東日本大震災（2011年）、熊本地震（2016年）、新型コロナウイルス禍（2020年～）という自然災害・疫病の猛威にも直面しました。そんなとき、メダカのコンサートは被災地・被災者の皆さんと想いを共にして参りました。岩手県釜石市との交流が芽生えたのも音楽が取り持つご縁です。



一進一退の歩みを刻んできたメダカの学校であります、やむなき諸般の事情により本年度を以てひとまず休止符を打たせて頂くことになりました。そのご報告とこれまで賜った恩顧の数々に謝意を表して、本日のファイナルコンサートを企画致しました。私ども永遠のテーマである「自然を大切に」の願いを込めた演奏をお届けします。心ゆくまでお楽しみください。永きにわたり洵に有難うございました。

農的暮らしのお勧め

顧問 四宮 明彦
(元鹿児島大学水産学部 教授)

朝起きると田んぼに向かい、まずは稲つくりの相棒であるアイガモたちに給餌し、あぜを一巡りしてジャンボタニシの卵を取り、水量を加減します。稲苗では昨夜羽化したウスバキトンボ、アオモンイトトンボが体を休めています。秋口に熟した稲穂は刈りとり、竹竿にかけて天日干し、脱穀します。一部の田んぼには小麦と大麦を植え、翌春に小麦はパン粉やそうめんの、大麦は味噌の材料になります。菜園ではキュウリ、トマト、ナス、ゴウヤ、カボチャ、スイカなどの夏野菜が育ち、茶畑では、カラスウリ、ヤマノイモなどの侵入植物と年中闘い、育てた春の新芽が一年分の緑茶になります。

家内の実家で続けてきた農の営みを引き継いだ私たちは、化学肥料と農薬は使いません。魚のアラや残飯をリサイクラーで乾燥粉碎し、さらに落ち葉、野菜くず、豆類の茎などを切断処理、ここに米ぬかを投入して、約半年かけて作った自家製堆肥とコガネムシ、カメムシ類の害虫対策は誘蛾灯です。家から数百メートルの茶畑ではイノシシ、アナグマによる作物被害が増えたので、狩猟免許を得て、ワナ猟を習得し、年間数頭の獲物を捕獲しています。思いがけぬ柔らかさ、味の濃さを備えたジビエですが、解体精肉後は冷凍肉かハムに加工し周年利用します。庭先数か所に置いたニホンミツバチ群の蜜はジャム類の加工に欠かせません。この農的暮らしは適度な運動と刺激をとまなう健康増進活動です。

ウクライナ情勢を受けて、日本の食物事情の危うさも知られてきました。しかし、基本的には地産地消の食文化なら、世界的な食糧危機にも生き延びられる、との見方があります。米を作る田んぼがあるなら、琵琶湖域での、魚が田んぼに上がっていける仕掛けのように、工夫することでメダカも各地で生きていきます。田んぼが無理な方は、庭先やベランダから農的暮らしを始めませんか。

最近の「研究の偶然性」について

日本めだかトラスト協会名誉会長 岩松 鷹司
愛知教育大学名誉教授

人類は欲に目がくらみ、いつまで美しい地球の表面、周りを破壊、傷つけ、汚染し続けて、戦争によってグローバルな平和と幸せを壊して、いったい何を求めてそうするのか解らない現況です。

そうした中、鹿児島の「メダカの学校」は本校が笹連小学校跡地に1991年7月にできて、メダカを通して環境問題を考え、故郷の自然の再生や地震被災地の人々との交流に取り組む夢の活動が始まりました。2001年にコカ・コーラ環境教育奨励賞を受けた校長の松本清志さん、フルートの師匠でもある音楽家の池田博幸事務局長さん、そして元新聞記者の久本勝紘理事長さんたちは、この猛暑より熱い思いを以ってその活動を33年間続けてきました。

とりわけ、毎年開催される池田先生や地元のコラスグループが出演する「メダカのコンサート」は、地域の心潤す交流イベントであって、メダカの学校の会員の方々の純真な思いの表れです。

また、会員の皆様を支える季刊誌「メダカの学校通信」は事務局のすばらしい活動記録です。

メダカとの交流や生き物の学習を「岳の池」で続けてきました。これらの夢の活動を次の世代が引き継ぎ、「岳の池」が“夏草や兵どもが夢のあと”にならないように祈っています。

メダカのお蔭で、私は鹿児島の皆様と巡り合うことができ、この上ない幸運な人生でした。研究もいまだに続けています。高温(40℃)・高濃度(0.1ug/ml)の女性ホルモンによる数時間処理で雌化させる性転換に成功し、それによって得たYY雌メダカが大きさの異なる卵を生むことを知りました。その実験で、卵形成に関係する遺伝子は常染色体上にあり、性染色体にはないこともわかりました。現在、私は人々に少しでもお役に立つものを、と思いまして「メダカの発生と成長の図説」という本を執筆中です。

メダカのコンサート “ファイナル” “によせて

日本めだかトラスト協会

会長 尾田 正二

(東京大学大学院新領域創成科学研究科 先端生命科学専攻 動物生殖システム分野)

メダカを国際宇宙ステーションで健やかに飼おうとして、メダカも人間もこの世界の部品（パーツ）であると教わりました。世界＝宇宙＝生態系は無数のパーツが複雑に関係しながら時間発展する動的平衡系です。そのようなシステムを複雑系（complex system）と言います。少しずつであっても改悪する複雑系はいつか必ず破綻（＝消滅）します。

ですので、存在し続ける複雑系は自ずと改善するようにできています。この世界が存続し続ける（＝善くなる）のに資することがパーツとしての私たちの存在意義であり、生きる目的です。宮崎駿監督の「風の谷のナウシカ」の中で「個にして全、全にして個」とオームが言ったのはこのことだと思います。

「一人ができることには限界があるが、想いこそが永遠であり、不滅である。想いは受け継がれ、決して滅びない。」これは吾峠呼世晴さんの「鬼滅の刃」のフィナーレでの言葉です。世代から世代へ、想い（＝生）は受け継がれ、愚直に無限に繰り返されます。

はじめてメダカのコンサートを聞かせていただいた2021年の夏、おかあさんコーラス、「コールはらら」が歌う「瑠璃色の地球」を聞いて涙しました。「地球という名の船の誰もが旅人 一つしかない私たちの星を守りたい」この想いが受け継がれる限り、メダカのコンサートは不滅です。メダカのコンサートはいったんファイナルですが、同時に新しいフェーズのスタートです。メダカも、日本の津々浦々で命を繋ぎながら、我々に「生き物が生きる」ことの手本を示し続けてくれています。

第32回メダカのコンサートに寄せて

鹿児島県環境林務部 自然保護課

種子田 賢 宏

「第32回メダカのコンサートの開催」、おめでとうございます。

これまで長年続いてきた、本コンサートも本年をもって、最後ということで、非常に寂しい想いがあります。

童謡「めだかの学校」にも歌われているように、メダカは幼い頃、身近に感じられる生き物でしたが、現在は絶滅危惧種に指定されており、地域固有の野生のメダカは非常に貴重なものとなっております。

私自身も大人になり、幼い二人の子を持つ親となりましたが、メダカを見せてあげるには、水族館等に連れて行く必要があり、本来の自然におけるメダカの姿を見せてあげられないことについて、とても残念に感じております。

本コンサートで歌われる童謡や、語られるお話などを通じ、メダカという小さな命を守るという意識から、この豊かな自然を守ろうという大きな意識の輪が広がっていき、川を覗けばメダカが泳いでいるような自然環境が戻ってくることを願っております。

最後に、「メダカの学校かごしま」様の、これまでの取組や想いが人々の心の中に残り続け、次の世代へ受け継がれることと、この素晴らしい「メダカのコンサート」がいつの日か再び開催されることをお祈りしております。

メダカを通じて生物多様性や水環境について考えてみましょう

鹿児島市環境保全課

課長 福 重 義 隆

第32回「メダカのコンサート」が、多くの皆様のご参加のもと盛大に開催されますことを心からお喜び申し上げます。

本市におきましては、将来の世代に鹿児島市の豊かな自然や生き物をより良い状態で引き継いでいくために、今年度、新たに「生物多様性アクションプロジェクト」をスタートし、生物多様性分野における地域連携・協働を推進することとしております。

また、水環境イベントの開催のほか、本市の湧水や滝などの水辺スポットをまとめた、かごしま水辺環境ガイドブック「かごしまの水辺」の発行などを通して、多くの方々に本市の豊かな自然と水辺の魅力に気づき、訪れて、水環境への関心・愛着を深めていただきたいと考えております。

メダカの学校かごしまの皆様には、永年にわたり生きもの観察会などを開催し、市民の方々、特に次世代を担う子供たちに生き物や水環境の大切さを伝えてこられたことに、感謝申し上げます。

結びに、この夏をもって活動を終わられることをお伺いし、さびしい思いもございますが、これまで生物多様性・水環境保全に多大な貢献をされてこられたことに敬意を表しますとともに、本日のファイナルコンサートが思い出に残るすばらしいひと時となり、生物多様性・水環境保全活動など皆様の想いが引き継がれ、さらに広がることをお祈り申し上げます。

メダカのコンサートありがとうございます！

環境未来財団

事業課長 塩 川 哲 郎

メダカのコンサート FINAL 開催ありがとうございます。

本当に最後ですか!?! とてもさびしいです！ 池田博幸先生 33年間ありがとうございました。昨年、メダカの学校かごしまが解散となり、今年はメダカのコンサートまで終わってしまうなんて……

ひとつの時代が終わっていくような寂しさと悲しさをひしひしと感じています。

しかしながら池田先生が、長年に渡って育ててこられた多くの子ども達がありますね。

歌うことの喜びや楽しさ、音楽の素晴らしさを受け継がれて、さまざまな所で活躍しているのでしょうか。

池田先生をはじめ、これまでメダカの学校の環境保全活動やメダのコンサートのステージに立った全ての方々に感謝しながら FINAL コンサートを視聴させて頂きたいと思います。

ありがとうございました。

メダカの学校「岳の池ビオトープ」回想

「鹿児島県生活科・総合学習教育研究協議会」

名誉顧問 成見 和 總

記念すべき第32回「メダカのコンサート Final」の開催、おめでとうございます。

「全国めだかシンポジウム鹿児島大会」基調講演を含む10余年間、『休耕田ビオトープ岳の池、春・夏の生き物観察会』（夏は「かごしま環境未来館共育講座」）を中心にした活動への参加を通して『メダカの学校』の幅広い素敵な「自然～社会～文化:SDGs」活動に触れ、私の「人生・教育・研究観」に多くの教訓を得、何よりの研修の好機だったと改めて感謝しています。

- ① 人生観（基底に自然）：人間も自然の一員・自然体験は原体験⇒人生自然体！
日本人の豊かな感性の根源は四季の移ろい「豊葦原瑞穂国」里山、その主『田園』の重要性&「休耕田ビオトープ」の的確な管理による『水生生物多様性』の具現化策」を実感し再認識。
（水生生物全般とりわけ鹿児島市内久しぶりの絶滅危惧種昆虫タガメまで「岳の池」訪問）
- ② 教育観（基底に生命）：薩摩の恵まれた生命の必須条件「水・大地・大気」⇒郷土教育！
水「南北600km黒潮」&大地「活火山桜島」&空気「照葉樹林」の特徴を生かした“郷土を知り愛し誇りに思い郷土の発展に尽くす”の「郷土教育『素材の教材化』」に貢献。教育とは“生命の最大限の輝き” 教師とは“その火付け役”の再確認。（スズメ⇒メダカの学校）
- ③ 研究観（基底にトンボ・メダカ）：想定外・自己の限界への対応⇒未知への挑戦！
トンボ（無脊椎動物節足動物）とヒト（脊椎動物哺乳類）の線上的中間にメダカ（脊椎動物元祖魚類）による動物界の進化系統が加わり、研究教科間の平面構造化（大きな△）試案。
（「絶滅危惧種メダカやベッコウトンボを保護しなくてはならないのは、棲みにくい立場にあるメダカやベッコウトンボが棲みやすい環境は、他の水生動物はもちろん、我々人間にとっても住みやすい環境となるのでは。ノーマライゼーション?!」）
持続可能な新たな開発目標での『メダカの学校』の進化を房総より祈念し、期待しております。

「メダカの学校かごしま」の活動に感謝！

鹿児島大学総合研究博物館協力研究者

大木 公彦

昨年「メダカの学校」の幕を閉じるというお話を伺った時、複雑な気持ちになったのは私ひとりではないと思います。続けていただきたいという気持ちと、現状を見聞きして、幕を閉じることにも仕方がないことだという気持ちが交錯しました。しかし、「メダカの学校」の活動を毎年行うために費やすエネルギーが如何に大変だったかと思う言葉もありません。今は、これまで長きにわたって続けてくださったことに対する感謝の気持ちでいっぱいです。

事務局長の池田さんとお会いしたのは、30年前の8・6豪雨災害の直後でした。豪雨災害が発生した原因を知りたくて、甲突川上流の小山田町から新上橋付近までの洪水の水位や崖崩れの状況を調べ終わった頃で、8・6豪雨災害をテーマにした文化ジャーナルの座談会での席でした。

災害を繰り返さないために、都市開発に伴う調整池の必要性や自然を守ることの重要性を実感しました。それと同時にシラスの崩壊を目の当たりにして、専門としてきた地質学の重要性を再認識した出来事でもありました。

私たちの住む大地の成り立ちや地層の性質を学び調べることによって災害の軽減化に繋がることは間違いないのですが、そのことを多くの方に知っていただく情報発信が研究者は下手であることも認めざるを得ません。

池田さんが「メダカの学校」の善き仲間のみなさんと進めてこられた「メダカの学校」の、自然と動植物の営みの大事さを伝えるという素晴らしい取り組みには、いつも頭の下がる思いでした。皆さんの素晴らしい取り組みは終わっても、池田さんの自然に対する情熱は、多くの子どもたちが引き継いでくれるに違いありません。高校から大地を学ぶ「地学」という教科が消えつつある今、「メダカの学校」には遠く及びませんが、小中高の生徒さんへの出前授業は極力引き受けるようになりました。心から「メダカの学校」を続けてこられた池田さんや支援された皆さまに感謝いたします。

志布志分校はこれからも……

メダカの学校志布志分校

校長 佐藤 寛

「メダカのコンサート Final」開催おめでとうございます。

そして、これまでの様々な活動、長い間本当にお疲れさまでした。

さて、『メダカの学校志布志分校』は開校以来『メダカの学校かごしま』の皆さんの背中を見ながら活動してまいりました。これまでのご指導に対し感謝申し上げます。

志布志分校開校式では、大雨の中大型トラックの荷台にステージを作り、松本校長先生のユニークで楽しい開会のあいさつや池田先生のフルートの演奏で式を盛り上げていただきました。

その他、前川のせせらぎを聴きながらのコンサート、前川の探検、自然観察会、流水下り、孟宗竹を使ったソーメン流し、水鉄砲大会、キャンプ等子供たちが参加できる様々な野外活動を行ってきました。今となってはどれもとても素晴らしい思い出としてわれわれの心の中にも残っています。

これまで台風や口蹄疫などの試練もどうにか乗り越えてきました。しかし、コロナ禍の影響は思ったよりも大きく、お互いにソーシャルディスタンスを取ることが難しい川遊び等の野外活動の実施は困難を極めました。

ただ、以前参加してくださった保護者の中には、「今度はいつあるのですか？下の子供もぜひ参加させて、自然体験をさせたい。」と言ってくる方もいらっしゃいます。このような声を聞くたびになんとかつづけたいとスタッフの間は思っているところです。

若者にこの故郷の自然の良さを体験してもらい、いつかはこの地で活躍するようになってほしい。そんな願いを込めて続けてきた「メダカの学校志布志分校」。地域を巻き込み環境や青少年育成のための活動を少しでも長く続けられたらと思っている日々です。

久本理事長、池田先生をはじめ多くのスタッフの皆様これまで本当にありがとうございました。

ホタルとメダカの久木野から

ホタルとメダカの久木野校

会長 古木 健一

第32回メダカのコンサート FINAL

メダカの棲める甲突川に「メダカの学校かごしま」と共に

「くちびるに歌（詩）を心に太陽を」

FINAL～NEW-BEGINNINGS

メダカの学校は、今日まで幾多の子どもたちを育て、自然の豊かさを育み環境教育の重要性をリードしてきました。

私たち、ホタルとメダカの久木野学校は、平成4年（1992年）に、ホタルとメダカの少年団と育成会を結成し、「メダカの学校かごしま」の分校として今日まで環境教育・情操教育、校区おこし等の一環として、久木野校を中心に地域ぐるみで活動してきました。

その間「メダカの学校」の皆さまには、松本校長先生、池田先生ご夫妻をはじめ、関係する方々の思いと情熱と歴史の中、今日までの30数年、ご指導、ご支援頂き大変お世話になりました。

時代の流れの中、久木野小学校は134年の教育の歴史を、平成27年3月に閉じました。

今日は、これまで共に学んだ子どもたちと私たち、新しいページが始まる日でもあると思います。

日々の生活の中の、歌声・音楽が、社会活動として発展し生涯に渡りこの上なく素晴らしいことでもあります。

「第32回メダカのコンサート」開催されることを、心よりお喜びと感謝と尊敬を申し上げます。

自然は、風や雨等、厳しい面もありますが、その中でホタルが飛び、トンボや蝶、メダカ等がめぐる季節の中、平和に活動しています。

これからも新たな地域活動、環境活動を展開されると思います。

これからも、ご指導とご協力をよろしくお願いします。

「メダカの学校かごしま」の活動は、非営利活動法人メダカの学校理事長をされた久本勝紘さんが編集された「メダカの棲める甲突川に」（2020年3月発行）これまで歩みと活動が詳しく紹介されています。

プログラム

オープニング

メダカの子ども合唱団（指揮；池田博幸 ピアノ；坂口紗弥）

- メダカの子ども …………… 池田博幸 詞・曲
(中村浩子 編曲)

メダカの子ども合唱団&マミーズ

- 夢をかなえてドラえもん …………… 黒須克彦 詞・曲
- パプリカ …………… 米津玄師 詞・曲
- 世界中の子どもたちが …………… 新沢としひこ 詞 中川ひろたか 曲

フルートとピアノ（フルート；川野さわか ピアノ；中島俊子）

- めだかの学校 …………… 中田喜直 曲
(河野敦朗 編曲)

ギター弾き語り（歌；川野恭司 フルート伴奏；川野さわか）

- 誰もいない海 …………… 山口洋子 詞 内藤法美 曲
- 雨 …………… 八木重吉 詞 多田武彦 曲
- 南部牛追い唄 …………… 岩手県民謡

実行委員長のお話し（久本勝紘）

合唱 コールはらら（指揮；池田泰子 ピアノ；中島俊子）

- 気球にのってどこまでも …………… 東龍男 詞 平吉毅州 曲
- 麦藁帽子 …………… 立原道造 詞 三善晃 曲
- 春（女声合唱曲集「うたを うたう とき」より）
…………… 新川和江 詞 信長貴富 曲

みんなで歌いましょう

- 赤とんぼ …………… 三木露風 詞 山田耕筰 曲
- めだかの学校 …………… 茶木滋 詞 中田喜直 曲

休 憩

日本と世界のメロディー

司会：澄本禎子

ピアノ ソロ（中島俊子）

- からたちの花 …………… 山田耕筰 作曲
- トルコ行進曲 …………… モーツァルト 作曲

独唱&重唱（歌；久保光暖、久保歌暖、池田泰子 ピアノ；中島俊子）

- この道 …………… 北原白秋 詞 山田耕筰 曲
- からたちの花 …………… 北原白秋 詞 山田耕筰 曲
- 地球の子ども …………… まどみちお 詞 山本直純 曲
- もののけ姫 …………… 宮崎駿 詞 久石譲 曲

ファゴットソロとアンサンブル（久保由香理とファゴットLab. ピアノ；中島俊子）

- ノットウルノ（夜想曲）…………… ユリウス ヴァイセンボーン 曲
- ディベルティメントより1.Allegro …… アラン シュテフェンソン 曲
- いのちの歌 …………… miyabi 曲
- サウンドオブミュージック・メドレー …… リチャード・ロジャース作曲
(荻野清子 編曲)

2本のフルートとピアノ（フルート；池田博幸 川野さわか ピアノ；中島俊子）

- 2匹の蝶 I - II …………… E.クロンケ 曲

フルート、ファゴットとピアノ（フルート；池田 ファゴット；久保 ピアノ；中島）

- 小さな世界 …………… M&B シャーマン 曲

合唱（コールはらら、コール中央、コール秋桜 指揮；池田泰子 ピアノ；中島俊子）

- 群青 …………… 福島県南相馬市立小高中学校平成24年度卒業生 作詞
小田美樹 曲
(信長貴富編曲)
- 女声合唱のための唱歌メドレー ふるさとの四季より …… 源田俊一郎 編曲
故郷～春の小川～夏は来ぬ～われは海の子～もみじ～冬景色

フィナーレ

- ビリーブ …………… 杉本竜一 詞・曲

みんなで歌いましょう

- ふるさと …………… 高野辰之 詞・岡野貞一 曲

——みんなであたいましょう——

赤とんぼ

作詞・三木 露風

1. 夕ゆうやけ 小こやけの 赤あかとんぼ
負おわれて見みたのは いついつの日ひか
2. 山やまの畑はたけの 桑くわの実みを
小籠こかごに摘つんだは まぼろしか
3. 十五じゅうごで姉ねえやは 嫁よめに行ゆき
お里さとのたよりも 絶たえはてた
4. 夕ゆうやけ小こやけの 赤あかとんぼ
とまっているよ 竿さおの先さき

めだかの学校

作詞・茶木 滋

1. めだかの学校は 川の中
そっとのぞいて みてごらん
みんなでおゆうぎ しているよ
2. めだかの学校の めだかたち
だれが生徒か 先生か
みんなでげんきに あそんでる
3. めだかの学校は うれしそう
水にながれて つ～いつい
みんながそろって つ～いつい

ふるさと

作詞・高野 辰之

1. うさぎ追おいし かの山やま
小鮒こぶなつりし かの川がわ
夢ゆめは今いまも めぐりて
忘わすれがたき ふるさと
2. いかにいます 父母ちちはは
つつがなしゃ 友がき
雨あめに風かぜに つけても
思おもいはず 故郷ふるさと
3. 志こころざしを はたして
いつの日ひにか 帰かえらん
山やまはあおき ふるさと
水みづはきよき ふるさと

ピリーブ

作詞・杉本 竜一

1. たとえば 君が 傷ついて
くじけそうに なったときは
必ず ぼくが そばにいて
支えてあげるよ その肩を

世界中の 希望 乗せて
この地球は 回ってる
今、未来の 扉を 開くとき
悲しみや 苦しみが
いつの日か 喜びに 変わるだろう
I believe in future 信じてる

2. もしも 誰かが 君のそばで
泣きだしそうになった時は
黙って 腕を 取りながら
一緒に 歩いて くれるよね

世界中の やさしさで
この地球を 包みたい
今、すなおな 気持ちに なるのなら
あこがれや いとしさが
大空に はじけて 光るだろう
I believe in future 信じてる

※ 今、未来の 扉を 開くとき
I believe in future 信じてる

メダカのコンサート Final に寄せて

釜石ガバチョ・プロジェクト主宰

フルーティスト 山崎 眞行

第32回メダカのコンサート FINAL 開催おめでとうございます。

2011年3月の東日本大震災でのご縁でピアノを始め、その後毎年、多額の御寄附金を頂き、私自身も4回メダカのコンサートに参加させて頂きました。改めて心から感謝申し上げます。

今年はラストコンサートだとお聞きしましたので是非参加したかったです。

心に思い出されるのは、元気な子供達のうたごえ、心に染みる、心が満たされるコーラスの皆さんの歌声、感動で最後は歌えなくなった全体合唱の“ふるさと”です。

そんな鹿児島県のメダカの学校の皆さんの熱い思いが北国の岩手の釜石まで届いたせい、連日の猛暑で気温が一時は38度です。

最後になりますが、私の心の中では、メダカの学校から頂いた感動と小さな生命に対する慈しみの心を学ばせて貰ったので、これからの活動にしっかりと活かし、事あるたびに鹿児島を語り継ぎたいと思います。

本番のご盛会をお祈り申し上げます。

(岩手県釜石市出身・在住。フルーティスト、「釜石の第九」指揮者。2011年3・11の東日本大震災で家屋、楽器などすべてを失う。「被災した街 釜石に 芸術の灯を！」とガバチョ・プロジェクトを立ち上げ精力的に様々な活動を続ける。)

～変わらないもの～

「メダカの子ども」合唱団 & マミーズ

初代団長 上村 久美子

メダカの子ども合唱団結成から22年。振り返ればあっという間でした。しかし、結成時の団員が当時の親世代へ、マミーズがグランドマミーズへ……積み重ねてきた日々が確かにそこにはあるのです。生活を豊かにするものとして音楽があり、いつも歌が聞こえてくるような家庭が増えてくれることを願い、結成した合唱団でした。コロナ禍で当たり前は当たり前ではなかったことを思い知らされ、世界中が同じ苦しみを味わいましたが、世の中が大きく変化していく中でも「変わらないもの」はあるのだということを、強く思います。メダカの学校と共にあったメダカの子ども合唱団、感謝しかありません。メダカの学校は閉校しますが、育てて頂いた子メダカたちは、それぞれの未来へ向かって泳ぎ出します。その傍らにはいつも音楽が、歌が彩りを添えてくれるでしょう。

子どもたちの歌声は、大人100人分の歌声にも勝ります。エネルギーの塊の歌声を今日もどうぞお楽しみください。

出 演 者

フルート：川野さわか 池田 博幸

ピアノ：中島 俊子 坂口 紗弥

う た：川野 恭司 久保 ^{かのん}歌暖（鹿児島国際大学 1年）

久保 ^{こなん}光暖（松陽高校 2年） 池田 泰子

ファゴット：久保 由香理

鹿児島国際大学国際文化学部音楽学科非常勤講師、鹿児島大学学友会管弦楽団木管楽器ト
レーナー、日置ジュニアオーケストラ指導員、ファゴット Lab. 主宰。

ファゴット Lab（らぼ）

2022年に結成。若手ファゴット奏者の育成とファゴットアンサンブルの奏法研究に励む。
『伸び伸びと自然に暖かく響く音色と笑顔が』がモットー。

椎原 貫介（アーティストバンク登録演奏者）

柳田 竜次（アーティストバンク登録演奏者）

平田 心愛（鹿児島大学音楽科 2年）

司 会：澄本 禎子

お 話：久本 勝紘

コールはらら（指揮：池田 泰子）

（ソプラノ）

岩城 弘子	内屋 砂織	小山 清香	下野いずみ	新門 明子	杉森万里代
東福万里子	當房 政代	萩原 晴美	日高 祥子	福満 京子	蓑田利枝子
山本 美香	吉原 桂子				

（メゾソプラノ）

赤崎 里美	上村久美子	久保山恵美子	清水 道子	下松 詔子	田中智英子
田之頭厚子	竹迫 雅代	鶴田 博子	貫見 夏代	西山 京子	平田 裕子
福田 梨恵	福山 知子	本多由美子	前田 真理	町田 悦子	森山 尚美
吉富 順子	渡辺千佳子				

（ア ル ト）

池江 佳代	大塚かず江	窪田由美子	西郷 裕子	末吉マリ子	園田みどり
-------	-------	-------	-------	-------	-------

手塚美智代 福岡 裕子 宮路 奈奈 園田かおる

(団友)

中島のぞみ 坂上真理子 税所 祐子

コール中央 (指揮：池田泰子)

(ソプラノ)

富田 里子 岩城 弘子 園田 立 瀧 順子 前田紀美子 牧 明子
安田 洋子 矢田 睦子 山切とし子 吉田 啓子

(メゾソプラノ)

梶井 充子 上村久美子 下山 裕子 中尾 道子 室屋喜美子 渡辺 順子

(アルト)

藤元 幸子 関本恵美子 園田みどり 手塚美智代 中島 律子 西村 管榮
松尾 孝子

コール秋桜 (指揮：池田泰子)

(ソプラノ)

内屋 砂織 上橋恵美子 田原 むつ子 濱田 純子 麓 雅子 森元 恵子
小園てつ子 地徳 悦子 大園 節子

(メゾソプラノ)

小原サチ子 川原トシエ 川野 禮子 齋藤 公子 立山 洋子 新山美智子
東 百合子 小濱 由紀 末吉 文美

(アルト)

隈元 麗子 神宮 正子 寺園加代子 春田千恵子 福留のりみ 福元 照美
松本 治子 万田美智子 若松 良子

「メダカの子ども」合唱団&マミーズ (指揮：池田博幸)

(幼児・小学生) 出水 優希/小5 梅北 蓮司/小4・葵/小6 長増 天小5/・七/小3・立/小1 牧 亜麗愛/中1・紅空/小4・来華/4歳年中

(中学・高校生ほか) 飯山 空芽/高1 久保 光暖/高2 林 祐里/高2 原口 桃佳/高2 坂口 亜梨沙/高3 福永 真央/高3 久保 歌暖/大1

(マミーズ) 飯山 まき 石澤 真理 梅北 夏樹 江崎美智子 日高 祥子
牧 綾 久保百合香

合唱団プロフィール

「コールはらら」

原良小学校創立 35 周年記念式典での合唱がきっかけとなり、1990 年に自主活動グループとして結成されました。以来地域の行事や施設での演奏活動の他、合唱祭やコンクールなど活動の場を広げています。6 月の全日本おかあさんコーラス九州支部大会では上位団体に贈られる「バルーン賞」をコール中央さんと共に受賞しました。また、9 月 10 日には鹿児島県代表として長崎で行われる全日本合唱コンクール九州大会に出場します。

コールはららの歴史は、メダカのコンサートと共にありました。メダカの学校の音楽活動に数多く参加させていただき今があります。心からの感謝を込めて歌います。これからも仲間と共に「心が届く演奏」をめざし、合唱の素晴らしさを追求していきます。

「コール中央」

公民館講座として昭和 57 年に結成され、その後自主グループとなり 40 年がたちました。平成 12 年に池田泰子先生、中島俊子先生を指導者にお迎えして以来、毎週金曜日を楽しみに練習に励んでおります。気心の知れた仲間との合唱は何ものにも代えがたい素晴らしいひとときとなっています。県合唱祭・おかあさんコーラス九州支部大会・県おかあさんコーラス合唱祭に参加し、意欲的に活動しています。

6 月の全日本おかあさんコーラス九州支部大会で「バルーン賞」を受賞しました。

「コール秋桜」

私たちは谷山北公民館の自主学习グループとして毎月第 2、第 4 木曜日の午前 10 時から 12 時まで練習しています。現在、会員 26 名です。池田先生のユーモアを交えた的確なご指導と中島先生のすばらしいピアノ伴奏のもと、常に笑顔の絶えない楽しく充実したひと時を過ごしています。これからもみんなで楽しく元気に練習に頑張っていきたいと思っています。

「メダカの子ども」合唱団 & マミーズ

「メダカの学校」が、これからの社会を担う子どもたちの育成を目的に設立した「メダカの子ども」合唱団。その後、おかあさんたちも一緒に歌うことが増え、“& マミーズ” となりました。池田博幸先生の熱血指導と元気いっぱいの子もたちとの賑やかな朝の練習。甲突川や岳の池での観察会・音楽活動を通じて自然の大切さ・命の大切さを親子で学ばせていただきました。2001 年の設立以来、これまでに 300 人を超える子どもたちがこの合唱団を巣立っていきました。いつかまた、みんなで楽しく歌えることを夢見ています！

こんな『メダカの学校』でした！

こどもたちの良き遊び仲間だったメダカ。このところ、めっきり可憐な姿をみかけなくなりました。どこへ行ったのでしょうか。そういえばチビちゃんたちが住みかになしていた、郊外の小川や池も消えています。

帰っておいでメダカちゃん。小魚やホタルの幼虫が戻ってこれるせせらぎを取り戻すために、一人ひとりが身の回りの環境についても考えてみよう。そんな思いの人たちが集まって「メダカの学校」をつくりました。

幼児からお年寄りまでの気ままな教室は入退学自由、校則なし、できる人が、できるときに、できることをやる。無理せず、うれしく楽しく、よろこび多く、心豊かに、心平和に、それぞれの経験や知識、技能を生かして、運営に役立てます。「だれが生徒か先生か」一校歌に歌われている通りの楽しい学校です。コンサートや写真展、川の生き物探索会なども開いているので、いつでものぞいてみてください。



- 結 成 1990年5月24日
- 本校所在地 鹿児島市郡山岳町「メダカの学校 岳の池」
- 年 会 費 個人、家族、団体いずれの単位でも1,000円（いつでも入会できます）
- 事 務 局 鹿児島市永吉二丁目32-5 TEL・FAX (099) 257-8143
事務局長 池田博幸

学校や地域での「メダカの授業」、「メダカのコンサート」のご希望は事務局にご連絡ください。

あなたも「メダカの学校」に入校されませんか

「メダカの学校」は「自然を大切に」と呼びかけて、これまで多くの活動を行って来ました。

家庭で台所に立ち、生活を支えるお母さんが一市民なら、行政に携わる人も家庭に帰れば一市民、企業に勤める人も我が家では一市民。他の誰でもないそんな一人ひとりの「一市民」が、毎日の便利になった暮らしの中で、いろいろな所で、ふるさとの水、土、そして空気を汚してきたのだと教えられています。

今、私たちはふるさとを次の世代に残していく時の事を思います。家庭の一市民は家庭で、行政にある一市民は行政の働きのなかで、企業に働く一市民は企業の仕事の中でふるさとの自然の事を考えて、自分たちに出来る事をやればいいのだと思って色々考えています。本当にふるさとの豊かで美しい自然のこのころといのちの保全を願って「メダカの学校」も、共に考え活動しています。

気のいい仲間たちで、出来る人が出来る時に、出来る所で出来ることを、無理せず、楽しく精いっぱい、大切な自然のためにコツコツとやっています。

特に小さいお子さんをお持ちの若いお父さん、お母さん！子どもたちと一緒に川で遊びながら自然や環境、いのちについて考えてみませんか？

「メダカの学校」活動記録概要

1989年10月 池田博幸、松本清志の二人でメダカ保護を計画し語る。

1990年(平成2年)

4月7日(土) 南日本新聞「ひろば」に池田の投稿文「川にメダカを取り戻そう」が掲載される。

5月24日(木) 池田宅(鹿児島市原良町1616)で「メダカの学校」結成式

5月26日(土) 南日本新聞に久本勝紘記者取材の「メダカよ、よみがえれ甲突川」の記事が掲載される。

6月中旬 「メダカの学校通信」第1号発行

1991年(平成3年)

7月14日(日) 金峰町の笹連(さざれ)小学校跡地に「メダカの学校」本校開設

7月23日(火) 第1回「メダカのコンサート」(鹿児島県文化センター)

1992年(平成4年)

5月13日(水) 山形屋デパートで第1回写真展「3年目を迎えるメダカの学校」開催

7月25日(日) メダカの学校 志布志分校開校

1993年(平成5年)

5月22日(土) 加世田市津貫の久木野小学校が「メダカの学校分校」活動を開始。開校式

8月6日(金) 記録的豪雨により甲突川大氾濫、新上橋、武之橋が流失、川、街づくりを考える

9月3日(金) 台風13号で活動本校裏の金峰町扇山集落で山が崩れ、20名が亡くなられる

1997年(平成6年)

9月13日(土) 喜入町 一倉小学校で第1回「メダカのコンサートinひとくら」開催。

1999年(平成11年)

2月18日(木) 環境庁がメダカを「絶滅の恐れがある種」に指定

2001年(平成13年)

8月5日(日) 本校開校10周年記念「メダカの学校」サミットin金峰2001

2005年(平成17年)

8月22日(日) 郡山町岳地区の休耕田をお借りして「メダカ池」づくり開始

2008年(平成20年)

8月3日(日) 郡山岳町 熊野神社の夏祭りに初参加、地元の方々と交流を深める

2009年(平成21年)

9月29日(火) NPO法人(特定非営利活動法人)メダカの学校かごしま 正式登記

2011年(平成23年)

3月11日(金) 東日本大震災発生 中央駅1番街アエール広場で震災支援「メダカのコンサート」開始

11月7日(月) 岩手県釜石市の音楽家、山崎真行氏のグループに再生アップライトピアノを寄贈

2012年(平成24年)

6月23日(土) 岳の池近くの田んぼで田植え体験

8月18日(日) 第12回全国めだかシンポジウム鹿児島大会(環境未来館)・交流会(中原別荘)

8月19日(日) 全国からの参加者 午前中・岳の池視察、午後・第22回「メダカのコンサート」

特別ゲストに釜石市から、フルーティスト山崎真行氏をお招きする。

10月10日(土) 岳の田んぼで稲刈り。そのもち米で、12月15日(土)に餅つき大会

2013年(平成25年)

5月5日(日) 春の岳の池 生き物観察会(以後 毎年5月5日に開催)

7月14日(日) 第1回「メダカのコンサート」inこおりやま

7月28日(日) 甲突川 水辺の自然観察会 県・地域振興局企画に協力参加

8月6日(日) 8・6水害20周年記念企画 環境未来館

2014年(平成26年)

4月16日(水) 福山町「オレンジ学園」にて「メダカのコンサート」

5月17日(土) 久木野小 第20回「ホテルとメダカのコンサート」

11月23日(日) 「かごしまオーガニックフェスタ」に出演(以後2018年まで)

2015年(平成27年)

- 3月15日(日) 久木野小学校閉講式 134年の歴史に幕
3月末 「岳の池」が2015年度「かごしま自然100選」に選ばれた
5月～7月 そうしん助成金による岳の池デッキ・木道整備作業
8月31日(日) 夏の甲突川 生き物観察会

2016年(平成28年)

- 1月30日(土) 「環境子どもサミット」で「メダカの子ども」たちが発表
10月15日(土) 第20回メダカのコンサートinひとくら

2017年(平成29年)

- 5月14日(日) 「春の甲突川 生きものウォッチング」環境未来館講座指導
7月12日(水) 伊敷中学校1年生の総合学習「甲突川の生きもの観察会」指導
7月16日(日) 第4回「メダカのコンサートinこおりやま」

2018年(平成30年)

- 2月11日(日) ハートピア ふれあいコンサート 17回目の出演
5月20日(日) 「春の甲突川 生きものウォッチング」(環境未来館講座指導)
8月3日(金) 第3回鹿児島市「水環境フォーラム」で発表(環境未来館)
8月5日(日) 夏の甲突川 生きもの観察会
10月13日(土) 第22回「メダカのコンサートinひとくら」
12月16日(土) 鹿児島県厚生保護施設 草牟田寮で「メダカのコンサート」

2019年(平成31年)

- 2月23日(土) 「メダカの子ども」合唱団&マミーズ ミニコンサート(原良地区校区公民館)
4月5日、6日、8日(金・土・月) 岳の池、上の通称「メダカ池」 埋め戻し作業
5月12日(日) 春の甲突川 生きものウォッチング指導(環境未来館講座)
5月18日(土) 第24回「ホテルとメダカのコンサート」in久木野
8月18日(日) 第29回メダカのコンサート(斎藤パーク静香、明依ルシア・パーク出演)

2020年(令和2年)

- 3月14日(土) NPO法人としての最後の総会。この日をもって正式にNPO法人解散
4月初め 30周年記念誌、久本勝紘著「メダカの棲める甲突川に」発行発売
11月16日(月) 地球環境を守る鹿児島県民運動 環境保全活動優秀団体として表彰
(この他、例年恒例の、春の岳の池、春・夏の甲突川生き物観察会、メダカのコンサートなど、「岳の池整備保全作業」以外のほとんどの行事がコロナウイルス対策で中止)

2021年(令和3年)

- 5月22日(土) メダカの子ども合唱団&マミーズ ミニコンサート(県民交流センター)
7月25日(日) 夏の岳の池 生きもの観察会(講師;成見和總先生)
8月8日(日) 第30回記念 メダカのコンサート(宝山ホール)
(ゲストに釜石市のフルーティスト・ガバチョプロジェクト代表の山崎眞行氏をお迎えし、「日本めだかトラスト協会」代表の尾田正二先生もご参加くださる)

2022年(令和4年)

- 3月11日(金) 3・11メモリー復興支援募金コンサート,合わせてウクライナ支援募金も行う。
4月6日(土) メダカの学校かごしま総会
5月5日(木) 春の岳の池 生きもの観察会(成見先生の引退後、初めての会員講師による観察会)
7月24日(日) 夏の岳の池 生きもの観察会(第9回環境未来館 地域まるごと共育講座として)
8月20日(土) 第31回 メダカのコンサート

2023年(令和5年)

- 3月5日(土) 「岳の池」の表示看板撤去作業
3月11日(土) 12年目の3・11メモリアル・支援コンサート
7月25日(火) 昨年末解散後、7か月ぶりの「メダカの子ども」合唱団練習



33 年間
本当に
ありがとうございました！

※「メダカのコンサート」のプログラムは、32 回全て有アート印刷（東坂元）でした！